

■山村暮鳥 詩人。文学と宗教・伝統的心情と信仰をめぐる葛藤の上に立つ近代詩上希有な作品を遺し、結核で早世した。

やまむらぼちょう

秩父事件・・・1884＝ 群馬県棟高村で繭の仲買商の長男に生まれる。

父が事業に失敗、小作農としての貧窮の生活を幼少年期に過ごす。

帝国憲法発布1889＝ 5歳：

郡司千島探検1893＝ 9歳：

日清戦争始・1894＝10歳：

工員ほか多くの職を転々とし、

ピアノ国産化・1900＝16歳：年齢をいつわって小学校の代用教員などもした。

教科書疑獄・1902＝18歳：前橋聖マッテア教会にて受洗。

日比谷公園・1903＝19歳：東京築地の聖三一神学校に入学。

日露戦争終・1905＝21歳：

アヲキ創刊・1908＝24歳：卒業。以後、秋田県横手をはじめ湯沢、仙台、水戸、福島県平、ふたたび水戸と聖公会伝道師として各地に転任。

韓国併合・・・1910＝26歳：自由詩社に参加、「航海の前夜」ほかを発表。

大逆事件判決1911＝27歳：

明治天皇没・1912＝28歳：

大正政変・・・1913＝29歳：*その詩作活動は処女詩集「三人の処女」を経て、

21ヶ条要求・1915＝31歳：*「聖三稜玻璃」に至り、その清新異風の詩調は近代詩史に一紀元を画すものとみられたが、

本格政党内閣1918＝34歳：*第3詩集「風は草木にささやいた」では人道主義的作風に転ずる。結核のため咯血し、

ベルサイユ条約・1919＝35歳：伝道師の職を休職、終焉の地茨城県磯浜にその晩期を過ごし、

大暴落・・・1920＝36歳：

原敬首相暗殺1921＝37歳：

護憲三派圧勝1924＝40歳：*病没した。直後に刊行の詩集「雲」に至っては枯淡な東洋的詩境へと転じた。